

サピエンスの歴史とグローバル・イシュー

ーグローバル・イシューをグローバルに考察するー

浅野慎一

参考論文 http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003kernel_81010292

「ホモ・サピエンスの史的唯物論とグローバル・イシュー：グローバル・イシューをグローバルに考察する」
『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』11-2(2018年)

序. 課題と前提

「グローバル共生社会論」の目的：人類が直面する「グローバル・イシュー (global issue)」、
& 克服しうる共生社会の可能性を考察。

グローバル・イシュー：一国 (national) ・一地方 (local) だけの特殊な問題ではなく、
国境を越えて地球規模で展開している問題。

ex) 地球環境破壊、グローバルな経済格差、

人 (移民・難民等) ・金・物・情報の国境を越えた移動→政治・社会・文化的な諸問題、
国際テロ・戦争、世界各地で共通して発生している治安悪化・社会解体 (差別・いじめ・人間疎外等)
＝個別の国家・地域の枠内では解決できず、国境を越えた共同の構築が要請。

グローバル・イシューの3つの前提：

- ① 「人間 (ホモ・サピエンス)」の「生命－生活 (life)」にとっての問題。
- ② ∴ 人間が認識し、解決を目指している問題。
- ③ (少なくとも部分的には) 人間自身の行為に起因する問題。

課題：①なぜ、人間はグローバル・イシューを生み出したのか。

②なぜ、人間はそれを認識できるのか。

③人間は、いかにそれを解決してきたのか／解決しうるのか。

I. グローバル・イシューの前提条件：宇宙・生命・ヒトの生成

第1の契機：宇宙の誕生・ビッグバン (約138億年前)

過去から未来への一方向・不可逆的な「時間の矢」の生成。

宇宙の膨張→複数の事物の順序・因果関係の生成。

時間の不可逆性 & 事物の因果関係：「問題 (issue)」が生じる最も根底的な基盤。

BUT 認識する主体がいなければ、存在・「意味」を問われない。

「宇宙は、見られることによって初めて宇宙と認識される」。

第2の契機：生命の誕生 (地球上、約40億年前)

「生きる」という目的・主体性の発生。→主体的に解決すべき「問題 (issue)」の生成。

「今／ここ」という時空に特別の意義。→対比：「過去と未来／近くと遠く」の誕生。

「発生・誕生」～「死・滅亡」：固有の「時間の矢」 & 「限界＝寿命」の生成。

→限りある一度だけの命：「今／ここ」で何かをする主体性。

＝「問題 (issue)」を生み出す主体的な基盤。

BUT 「生きる」という「目的」 & 直面する「問題 (issue)」：脳が認識して初めて成立。

第3の契機：脳が発達した生物種 (=「ヒト」) の誕生。

ヒト科 (1700万年前)：ヒトとチンパンジー・ゴリラ等と共通の祖先。

ヒト亜族 (500～700万年前)：アウストラロピテクス等。草原生活。森から追放された「弱者」？

BUT 二足直立歩行、手の自由の獲得。

石器等、精巧な道具の作成。複雑な労働。→脳の巨大化、意識の明晰化。

ヒト属 (250万年前)：ホモ・ネアンデルターレンシス、ホモ・エレクトス等。

ホモ・サピエンス (20万年前、東アフリカ。以下、「サピエンス」)

抽象的な認識、因果関係の推理、言語コミュニケーション等の能力。「認知革命」。

①自然の因果関係の認識、目的意識的な制御・改造。

→自然を柔軟に、多様な方法で制御・改造。脳の一層の発展。

狩猟・漁労・採集、道具の生産等、「労働」を効率化。

②優れた言語能力→有効で大規模な協力関係・協働。

抽象的認識能力→時間合わせ・場所合わせ、共通のルールの創出

大規模な集団・「社会」を意識的に形成。

- ③ 時空の拡大：より遠い過去・未来／より遠方（彼方）の出来事をふまえ、「今／ここ」での労働・協働。

「労働」と「協働（コミュニケーション）」→脳に反作用、脳の一層の進化。
抽象的な認識、時空の拡大、大規模な社会形成：グローバル・イシューの出发点。
約7万年前、東アフリカ→全世界に進出。

寒冷地での生活：火の有効活用（暖房・調理）、住居・衣服の改善。

温暖地から追放された「弱者」の必死の努力→サピエンスの進化？

サピエンスの言語：単一・グローバル。地域毎に多様。

BUT 脳の言語野で創造・処理。∴ 品詞と文法、相互に理解・翻訳可能。

& 新たな言葉を創造する能力。∴ 新たな生活環境、より大きな社会形成にも柔軟に対応。

グローバルな生活環境の獲得。自然の厳しさ・激変にも柔軟に対応。

∴ 他のヒト属の滅亡後も、唯一生存・繁栄。サピエンスの中の「弱者」も生存可能。

森・温暖地から追放された「弱者」ゆえに、命がけで進化？。

BUT サピエンス：いかに「認知革命」で能力を高めても、宇宙（自然）・生態系（生命）・集団（社会）のすべての因果関係を知り尽くし、完璧に制御することは不可能。

∴ サピエンス：自然・生態系の一部。個々のサピエンス：集団・社会の一部。

∴ 自然・社会：「予期せぬ／意図せざる結果」を「問題（issue）」として突き付け。

→ サピエンス：「問題」発生の因果関係を一層深く認識、目的意識的に解決を目指す。

その繰り返し：サピエンスは生き延び、サピエンスとして進化。

∴ 知の発展の断念・意欲喪失→サピエンスは滅亡。

自然・社会への畏敬の念の喪失、すべてを認識・制御可能と思い込み→サピエンスは「予期せぬ／意図せざる結果」により滅亡。

∴ グローバル・イシューの解決：「知の不断の発展」 & 「無知の知（自分は何もわかっていないことの自覚）」の双方が不可欠。

II. 「農業革命」の衝撃

第4の契機：「農業革命」。

農業・牧畜の発明（1~2万年前）：高度に目的意識的な自然の改造・制御。

→余剰生産物（剰余価値）の生産。

サピエンスの生活：単純再生産から脱出。＝生活水準の向上、生産力の発展。

2つのグローバルな制度。

- ①市場。余剰生産物（剰余価値）の交換。

分業・コミュニケーションの拡張。

普遍的交換媒体：貨幣。グローバルな存在。地域毎に多様。

BUT 普遍的な交換媒体。一定のレートで交換可能。蓄積＝富裕の証。獲得欲求の認識・感情。

- ②国家・官僚制、文字・数字。

増大・蓄積されゆく剰余価値を、合理的に管理・活用する必要。

→文字・数字の発明（紀元前3000~3500年前頃）

管理機能の集積空間：「都市」の成立。都市と農村の分離。

剰余価値→「精神労働」と「肉体労働」の分離。

精神労働従事者（支配階級・官僚・学者・芸術家等）の成立。

政治機構・「国家」。血縁社会とは異なり、変更可能な地域的領域。

→より多くの剰余価値獲得＝地域的領域の拡大＝全世界の支配の指向。

生産力発展→時空の拡張：暦の発明。長期的な生産計画、大規模な土木工事を促進。

政治・経済の中心：アジア・アフリカ。（ヨーロッパ：後進・周辺）

「農業革命」：様々な「問題（issue）」の創出。

- ①階級・格差。

多数者が労働・協働して作り出した余剰生産物（剰余価値）：少数者の私的取得・所有物。搾取。

奴隷制：奴隷の労働が生み出した剰余価値、奴隷主が搾取。

農業、生産力発展・剰余価値の生産→奴隷制度が成立。

封建制：個々の農奴に零細な分与地（農地）。生産物の中から、封建領主が年貢（剰余価値）を搾取。 ex) 「五公五民」＝搾取率50%。

男女差別：母系性→剰余価値が男性の所有物に。父系性・家父長制。

- ② 生きた人間の「生命－生活 (life)」より、剰余価値の生産・蓄積・取得を優先。無慈悲な社会。
 奴隷主・封建領主：奴隷・農奴を「生かさぬよう、殺さぬよう」、窮乏を強いる。
 奴隷：重労働。剰余価値の生産能力に応じて処分・人身売買。
 → ∴ 反乱、労働力支出の節約。＝剰余価値生産の停滞。
 → 奴隷主：個々の奴隷に分与地（農地）を与え、自由に生産させ、年貢を搾取。＝封建制の発明。
 → 農奴の生産意欲向上＝生産力拡大 & 剰余価値・搾取（年貢）も増加＝格差拡大。
- ③ つねに未来を懸念・心配しながら、今を生きる。
 「今／ここ」＝未来のための単なる手段。無限の勤勉・労働強化。
 時間・空間・土地に緊縛された生活。「人が小麦や牛の家畜になった？」。
- ④ 戦争の発生。剰余価値、土地・奴隷・農奴の争奪。
- ⑤ 環境破壊。農地拡張・森林伐採→洪水、旱魃。伝染病（ペスト等）、蝗害による飢餓・生態系破壊。

III. 帝国主義・資本主義の衝撃

第5の（最大の）契機：帝国主義・資本主義。

16世紀前後、市場・交易の拡張。航海技術の革新。

ユーラシア大陸全域・アフリカ・南北アメリカ・オセアニアをつなぐグローバル・ネットワーク。

覇権：ヨーロッパ諸国（＝従来の後進・周辺）。

←アフリカ・南北アメリカの植民地化。膨大な奴隷労働力、銀（世界通貨）、諸資源の獲得。

20世紀初頭、帝国主義（植民地支配）：一個の世界システムとして地球を包括。

＝グローバル資本主義の確立。

ヨーロッパ諸国（「帝国主義国」）内部にもリフォーム：「産業革命」・「市民革命」。

① 植民地から収奪した膨大な資源・労働力を結合。

効率的な生産活動の必要→「産業革命（蒸気機関＝エネルギー革命）」。

② 勃興する資本家階級による政治権力の奪取＝「市民革命」。

農奴：分与地（農地）から追い出し。都市に流出・労働者階級に。

西欧の「近代化」・市民革命における「自由・平等・博愛・人権」

＝帝国主義と資本主義、それを担う資本家階級・男性の利益の宣言。

≠普遍的な全人類の解放のスローガン。

∴ 市民革命以降、西欧諸国：植民地を支配、資本家・労働者の階級差別維持、女性参政権認めず。

帝国主義国（＝地球規模の剰余価値搾取に成功した国家）：

労働者階級を含む「国民」に、高い生活水準・福祉制度を保障。（＝「福祉国家」の誕生）

∴ 帝国主義国の「国民」：自国政府を支持。帝国主義・資本主義に反対せず。

& 帝国主義国間の大規模な戦争：「国民」の総動員（徴兵制）が不可欠。

∴ 労働者階級を含む「国民主権」・民主主義（男性の参政権）の成立。

* 「帝国であること」と、独裁か民主主義かは無関係。

「帝国」（＝世界中から富の搾取・収奪に成功した国家）ほど、民主主義。

国民主権・民主主義＝帝国主義の一構成要素。≠人類の普遍的な政治的解放。

生産力（剰余価値）の飛躍的発展→「問題 (issue)」の深刻化。

① 階級・格差のグローバル化。

宗主国と植民地：隔絶した格差。

アフリカ：膨大な人々が拉致、南北アメリカに強制連行、奴隷として酷使。

植民地の農地：食糧（穀物・ジャガイモ）生産の停止、宗主国の工業の原材料（綿花・羊毛等）

生産が強制。→膨大な餓死者。

植民地：自前の「近代化」による宗主国へのキャッチ・アップは不可能。

∴ 産業構造・技術移転：宗主国の都合次第で歪曲・断片化。

自律的・内発的な「近代化」・技術開発は不可能。

② 宗主国の労働者階級にも大きな問題。

封建時代の農奴とは異なり、生産手段（農地等）を所有せず。

∴ 自らの労働力を「商品」として販売するしか生きる術がない。弱い立場。

失業・餓死か？、低賃金で働くか？／就職できるか？、解雇されるか？／たえざる不安。

剰余価値率・搾取率：飛躍的增加。∴ 社会全体の貧富の格差：拡大。

& 搾取の見えにくさ。

1) あらかじめ賃金額を提示、納得・自己決定（自由な契約）に基づく就労。

∴ 賃金として受け取る分以外に、どれほど多くの剰余価値を生産したか、直接は見えぬ。

- 「九九公一民」でも搾取に気づかない。∴ 「契約通りに賃金受け取り」。
- 2) 技術革新。急速な剰余価値増加（「進歩＝常態」）。
- ∴ 貧困・格差の拡大：社会の構造的な問題ではなく、「進歩についていけない個人の自己責任・能力不足に起因」、「今はまだ貧困で格差が大きい、将来は下層階級にも富がトリクルダウンして、格差が緩和される」との幻想・幻惑。
- ③ 機械制大工業：機械の動きに合わせた人間労働を強制。
- 自然から隔離されたクロック・タイム（画一性・正確さ）が世界を支配。
- 労働：自己裁量の余地を喪失。断片化された分業（職務）に基づく協業。
- 仕事の意味・やりがいの喪失。際限のない労働強化、過労死の多発。
- 「労働者階級の育成機関＝学校制度」の発明。
- 時間割（クロック・タイム）、同一の内容を自己裁量の余地なく必修。
- 個々人を各階級・階層序列に配置するための競争主義教育・学歴社会。
- 分業に基づく協業に訓化させるための管理主義教育。
- 勉強・学習＝苦痛（≠喜び・生きがい）。
- ④ 市場の拡張：家族・地域コミュニティの弱体化。
- 「自立（孤立）」した個人 or 貨幣に支配された消費者。
- 家族：生産・労働の機能を喪失。消費の単位に。
- 地域社会：人と人の絆は希薄化。「隣人の顔も名前も知らない」、無関心・無縁社会。
- 学校・工場での人間疎外（いじめ・過労死・不登校等）：マクロな社会構造の問題とは捉えられず、「個人」の資質・パーソナリティ・不適応・病気（鬱病等）と認識
- ∴ 「個人」への教育・指導・治療で処置。
- ⑤ 環境破壊：工業化・労働者階級の都市集住→公害問題・都市過密問題。
- 「世界の工場」（イギリス工業都市）：伝染病、住宅・スラム問題。
- 「産業革命」：木炭需要→森林伐採。
- 化石燃料（石炭等）使用→二酸化炭素排出、「霧の都（pm2.5）」の健康被害。
- ⑥ 植民地の争奪：帝国主義戦争の頻発。
- 個別の帝国間戦争→二度の世界大戦（20世紀）＝戦争分でのグローバル化の実現。
- 「産業革命・エネルギー革命」に基づく兵器の発展。（銃器・戦車・艦船・飛行機・毒ガス）
- 核兵器（原子力）の製造・使用：「人類の科学技術による人類絶滅のリスク」の可視化。

IV. 帝国主義の崩壊、資本主義の延命ーポスト・コロニアルのグローバル・イシュー

帝国主義世界システムの崩壊（1940～1960年代）。

BUT 国境を越えたグローバル・イシュー：解消せず、むしろ深刻化。

第6の（最後の）契機：ポスト・コロニアルの世界資本主義システム。

帝国主義世界システムを崩壊させた主体＝旧植民地の民族解放闘争。

① 担い手：「民衆（people）」（≠「国民（nation）」）。

独立前の旧植民地：「国家／国民」不在。

反帝国主義のグローバルな連帯（国籍を問わないinternational-ism）

（≠inter-nationalism／united nations）

∴ 植民地民衆だけでなく、宗主国民・外国人等、帝国主義に反対する多様な民衆が結集。

② 武力闘争だけではない。

サボータージュ（怠業）・逃散、生産手段の破壊、治安攪乱等、「非暴力・不服従」の抵抗、広範・日常的な「生活・労働・社会戦」。→剰余価値の生産・搾取を機能不全に。

民族解放闘争勝利、帝国主義崩壊→人種・性別を問わず、人としての権利（「人権」）をもつという思想。

普遍的人権思想を確立した主体＝旧植民地の民族解放闘争（≠帝国主義下の西欧・市民革命）

20世紀半ば以降、普遍的な「人権」思想の普及：すべてのサピエンスの「問題（issue）」を自らの問題と受けとめる主体（＝グローバル・イシューの認識主体）の成熟。

帝国主義に固有のグローバル・イシューは克服。

BUT 旧帝国主義国：2つの抵抗

① 独立後の政治形態：「国民国家(nation)」に限定。

（前述）反帝国主義の民族解放闘争の主体：国籍・人種・民族を問わない「民衆（people）」のグローバルな連帯（international-ism）。（≠nation）

∴ 多様な形態での政治的秩序を模索。BUT 封殺。

独立時の国境線：現地の民衆の生活・協働の実態を無視、帝国相互の力関係で直線的に引かれた

恣意的分割線。∴ 民族・宗教・地域紛争の火種。

「国民主権」：「当該国の国籍をもたない人々（＝非国民）」を主権から排除。排他的制度。
国境で移動を制限。移動先では「国籍」に基づく差別。普遍的な「人権」と矛盾。

② 新独立国家・政府と協定。特別の権益を維持。

自国資本の多国籍企業としての進出、移民労働力（低賃金）の受け入れ、各種資源の提供etc.
優先的便宜。

→中核諸国（旧宗主国）：国境を越えたグローバルな剰余価値生産・搾取の体制を維持・拡張。
1950～60年代、多国籍企業化、移民労働力の政策的受け入れ。高度経済成長。

周辺諸国（旧植民地等）：一国単位の自律的・内発的な経済発展は困難。

中核諸国の多国籍企業を誘致、「世界の工場」を指向。

他の周辺諸国との「誘致競争」に勝利するには、低賃金労働力・低価格資源の提供不可欠。
自国内で雇用を確保できなければ、移民労働力の送付（＝低賃金労働力の提供）。

多国籍企業・移民労働力を機軸とする国境を越えたグローバルな剰余価値生産・搾取のシステム。
＝ポスト・コロニアルの新たな世界資本主義システム。

世界資本主義システム：剰余価値生産・搾取をグローバルに拡張するメカニズム。（＝帝国主義と同じ）。

BUT 多国籍企業・移民労働力を主な原動力。（＝植民地支配・収奪）

∴ 工業・製造業（「世界の工場」）：多国籍企業の進出先（＝周辺諸国）に配置。

中核諸国・都市部の主要産業：多国籍企業の中核管理機能、情報産業・対企業サービス業。

技術的基礎＝IT（information technology）産業。

生産・市場・金融のグローバル化→中核管理機能の高度化が不可欠。

∴ インターネット、通信衛星、スパコン、AI（artificial intelligence）。「IT革命」。

→新たなグローバル・イシューの創出。

① 国境を越えた階級格差・貧富の差の一層極端な拡張。

多国籍企業化・移民労働力：階級構造のグローバル化。

中核諸国の労働者階級：職場の海外流出、移民労働力流入による雇用喪失、賃金・労働条件の下落。

∴ 移民労働者への反発。暴力を伴う移民排斥運動も。

中核管理機能の担い手（専門職・管理職）との格差拡大。

地球規模 & 一国・一都市内部：格差社会化の急速な進展。

∴ 学校進学・学歴等：貧富による格差拡大。

& 格差社会化の推進←学校間格差の拡大・学歴社会化。

② 「国民主権＝民主主義の唯一の方法」という幻想の崩壊。

周辺諸国：多国籍企業の誘致に失敗→経済破綻。政治的混乱・内戦、難民流出。

多国籍企業の誘致に成功→「世界の工場」。

低賃金労働を基盤とした輸出主導型経済発展。貧富の格差拡大。

公害問題・環境破壊、都市の「過密」問題（住宅・交通・生活環境）。

→賃金上昇を求める労働運動、公害反対・開発規制を求める住民運動の活性化。

BUT 運動が結実して、賃金上昇、環境・開発規制強化されれば、

多国籍企業は誘致できず、他国・他地域に企業転出。

∴ 「世界の工場」の地位を維持するには、労働運動・住民運動の鎮圧が必要。

∴ 非民主的な独裁政権（開発独裁、共産党独裁）が維持・強化。

移民・難民流出：「自国での国民主権によって、生活の安定・向上が望めない」見切り。

「国民主権に基づく民主主義による生活発展」という展望への幻滅・失望が増幅。

中核諸国：「移民（＝非国民）」の大量流入。

→福祉国家体制（＝自国民だけに限定した排他的な生活保障制度）の維持は困難に。

グローバルな自由貿易・新自由主義：「国家による保護（関税・規制・公的福祉）＝自由市場の単なる障壁」とみなされ、削減・撤廃。

市場原理 & 個々人の自己責任に委ねられる領域の拡大。

& （前述）国民内部で、貧富の差・格差拡大。

∴ 「国民」としての同質性の崩壊：民族・人種・学歴・職業・所得・居住地・宗教等の違いによる利害対立・分裂が噴出。

移民排斥・極右民族主義の台頭：一見、「国民主権・ナショナリズム」への回帰。

BUT 実際は「国民の分裂」の一環。

③ 国家への不信、社会不安の増大→治安悪化。

民族紛争・地域紛争が多発。

国境を越えたテロ集団のネットワーク。戦争の主体も「国家」に限定されず。

- テロのターゲット：1) グローバル資本主義の中核管理機能が集積する中核諸国の都市。
2) その「担い手＝専門職・管理職」の職場・生活空間（リゾート等）
3) その「技術的基礎＝サイバー空間」。

社会システムの変革を伴わず、単に技術的に解決しようとするれば、

→監視社会化（監視カメラ・インターネット等）。

インターネット上の個人情報：国家が一元集約・ビッグデータ。AIを駆使して分析。

個々人の思想・不満・内心・コミュニケーションを監視。

「プライバシー、行動・内心・表現の自由」の制限：治安維持のための「必要悪」と是認。
BUT 「そのような社会が、本当に民主主義か？」との疑惑も増幅。

& 国家が人々の行動・内心・関係を技術的に監視：同じ技術を使えば、犯罪組織にも可能。
社会解体：技術的対応だけでは阻止しえない。

④国境を越えた地球環境破壊：飛躍的に拡張・深刻化。

ex. 「世界の工場・中国の工業都市」のpm2.5被害：一都市内・一国内にとどまらず。

IT機器の残骸等、産業廃棄物の周辺諸国への廃棄（＝「リサイクル」）＝地球環境破壊。

エネルギー革命：化石燃料→原子力。

「核軍拡競争」：1945年の広島・長崎「人類絶滅のリスク」の拡張・日常化。

原発：深刻・回復不可能な重大事故。スリーマイル、チェルノブイリ、福島。

核兵器・原発：今後、「周辺諸国＝世界の工場」で急増。

& 「国民国家」の揺らぎ：国家による管理能力の喪失（→制御不能）。

テロとの結合（手段としての核兵器、ターゲットとしての原発）。

⑤21世紀、原子力以外の技術革新→サピエンスの終焉？

監視社会化→AIによるトータルな人間生活・人類社会の管理。

安全・秩序・清潔・健康を保持する「最も正しい」行動・内心・生活を、AIが指示。

人間：それ以外の行動・選択の余地喪失。

* 「問題（issue）」の成立基盤：人間の脳による認識。

∴ 人間の脳が問題を認識する主体でなくなれば、「問題」は解消。

AIが、サピエンスの存在意義自体に疑問→「最も正しい安楽死」プログラム作動？

「死」の技術的克服：生物工学、ロボット技術を駆使、「問題のある臓器・身体」を着替え。

* 生命の有限性＝寿命：「今／ここ」で問題を解決する主体性の不可欠の基盤。

∴ 永遠の生命の獲得：問題解決の主体性の喪失。「問題（issue）」は解消。

主体性の喪失：「永遠の命」は無意味。サピエンスの自死・絶滅の自己選択？

遺伝子操作→ポスト・サピエンスへの人為的・技術的「進化」。

健康体質、超人的能力の獲得。（＝能力主義教育・規範の延長上）

「（遺伝子操作された）新人類」と「野生のサピエンス」が結ぶ関係は？

* 「問題（issue）」：人間（サピエンス）の「生命－生活（life）」にとっての問題。

∴ ヒトが複数種に分裂、サピエンスが滅亡すれば、「問題」は解消。

＝サピエンス：社会的な自己変革を伴わず、単なる技術革新で問題解決した場合の未来像。

＝我々が望むグローバル・イシューの解決か？。

サピエンスが「認知革命」によって得た目的意識性：どこを目指すのか？。

結. 今後の学習に向けて

現代のグローバル・イシューとその解決の展望：

①広い視野（歴史と未来／グローバルな空間／自然と社会）。

②複雑な因果関係の正しい認識。

③単なる知識・技術の習得ではなく、「問題を解決する」という明確な主体性・目的意識。

④我々は何を求め、何のために生きるのかを問う深い哲学的思考。

「わからないから、おもしろい」。「絶望は愚か者の結論」。

サピエンスの祖先：「認知革命」で得た能力により、各時代の深刻な「問題」を解決、「生命－生活」を維持。

∴ 私達は、「今／ここ」に生存。